

株式会社アバールデータ 第59期定時株主総会

2018年 6月 22日

スクリーン



ひろみつ
ひろみつ
広光
なかやま
なかやま
仲山
きくち
きくち
菊地
いわもと
いわもと
岩本

いさお
いさお
勲
のりくに
のりくに
典邦
ゆたか
ゆたか
豊
なおき
なおき
直樹

代表取締役社長

常務取締役

常務取締役

取締役

かなざわ
かなざわ
金澤
かねこ
かねこ
金子
おおつか
おおつか
大塚

けんいち
けんいち
健一
たけのり
たけのり
健紀
ただひこ
ただひこ
忠彦

取締役監査等委員

社外取締役

取締役監査等委員

社外取締役

独立役員

取締役

常勤監査等委員

発行可能株式総数

23,500,000株

発行済株式総数

7,417,842株

株主数

3,468名

議決権を有する株主数

3,349名

その議決権数

61,282個

監査等委員会の監査報告書 謄本

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第59期事業年度の取締役の職務の執行について監査いたしました。各監査等委員全員の一致した意見により、本監査報告書を作成し、その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

(1) 監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。なお、金融商品取引法上の財務報告に係る内部統制については、取締役及び有限責任監査法人トーマツから当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 監査等委員会が定めた監査方針、監査計画等に従い、内部監査部門と連携の上、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

(3) 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成30年5月18日

株式会社アバールデータ監査等委員会
 常勤監査等委員 大塚 忠彦 ㊟
 監査等委員 金子 健紀 ㊟
 監査等委員 金澤 健一 ㊟

(注) 1. 監査等委員金子健紀氏及び金澤健一氏は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

(注) 2. 当社は平成29年6月23日開催の第58期定時株主総会の決議により、同総会終結の時をもって監査役設置会社から監査等委員会設置会社に移行しました。平成29年4月1日から同年6月23日までの状況につきましては、旧監査役会から引き継いだ内容に基づいております。

以上



私たちは、お客様に「価値(value)」を提供し「信頼」を獲得します。

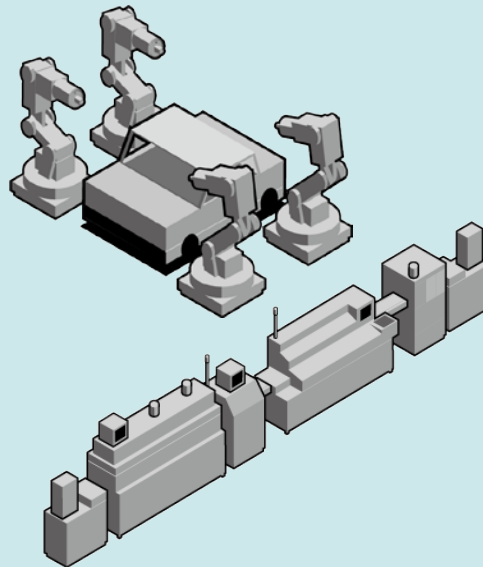
アバールデータは
工場などで使われる装置へ**組込む**
モジュール（部品）を提供しています。

アバールデータ製品



高信頼/長期供給設計

工場に設置される装置



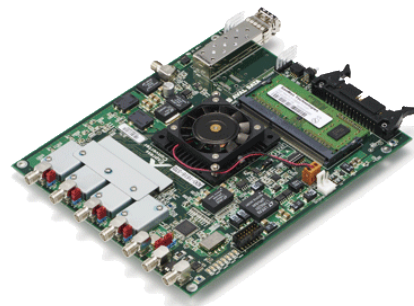
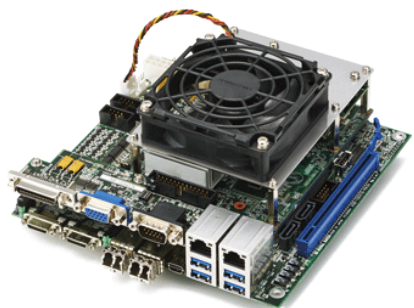
市場のさまざまな製品



日本のモノづくりの縁の下の力持ち

組み込みモジュール

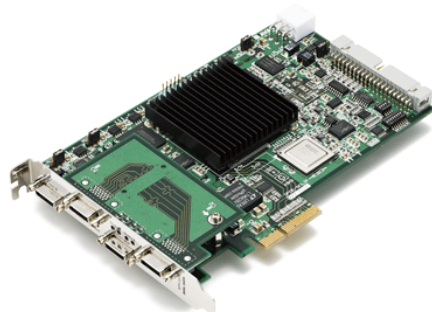
組み込み分野で業界を
リードする技術と製品



産業用ロボット、計測・通信機
で使用されます。

画像処理モジュール

国内トップクラスの実績



欠陥検知や位置決め等に
使用されます。

計測通信機器

産業用通信で最高速



機器間の高速通信に使用されます。



FPGAアクセラレータとして
データセンター等で使用されます。

子会社及び売却先企業

子会社

株式会社アバール長崎

売却先企業

東京エレクトロン デバイス株式会社

株式譲渡日

2017年7月1日

法的形式を含む売却の概要

法的形式

株式譲渡

売却株式の数

133,000株

売却後の持ち分比率

18.7%

売却価額

1,064百万円

2017年7月1日にて、（株）アバール長崎の一部株式を東京エレクトロン デバイス（株）に譲渡いたしました。

● 連結決算

① アバール長崎は第1四半期のみ連結対象

アバール長崎	1Q			
アバールデータ	1Q	2Q	3Q	4Q

② 純利益への影響 株式譲渡益にともなう税負担を中間期で計上

第1四半期にて、株式譲渡にともなう繰延税金負債のため
法人税等調整額、約3億円を計上

● 個別決算

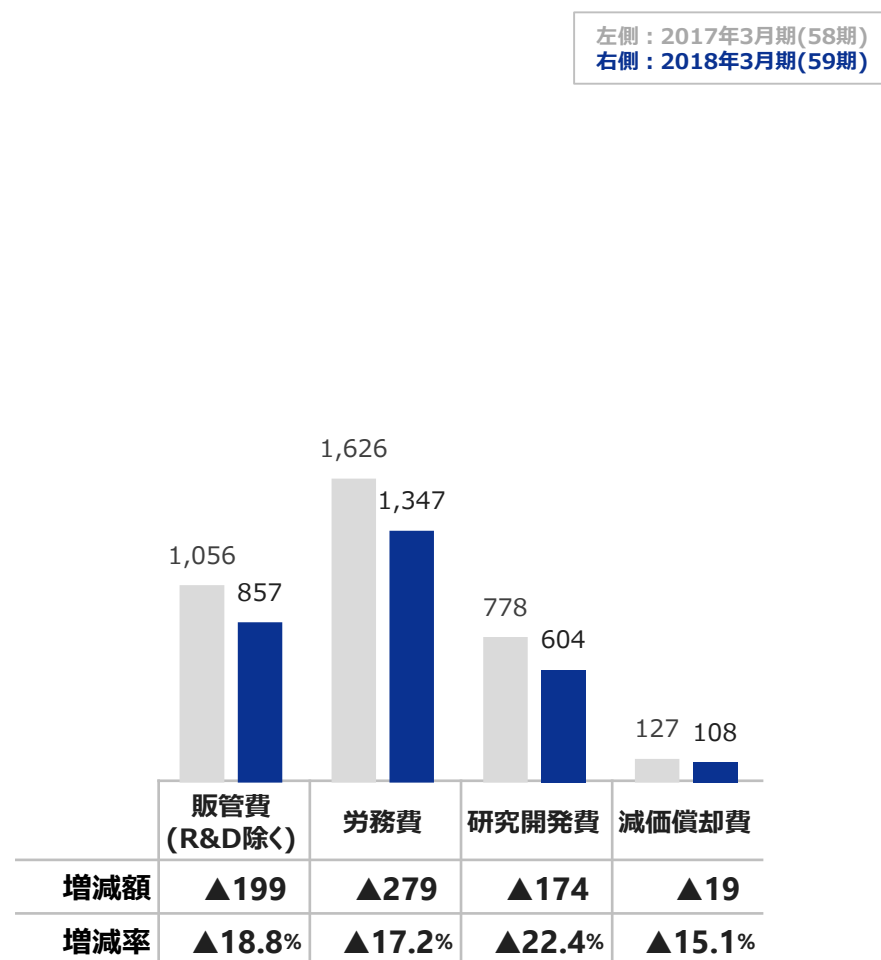
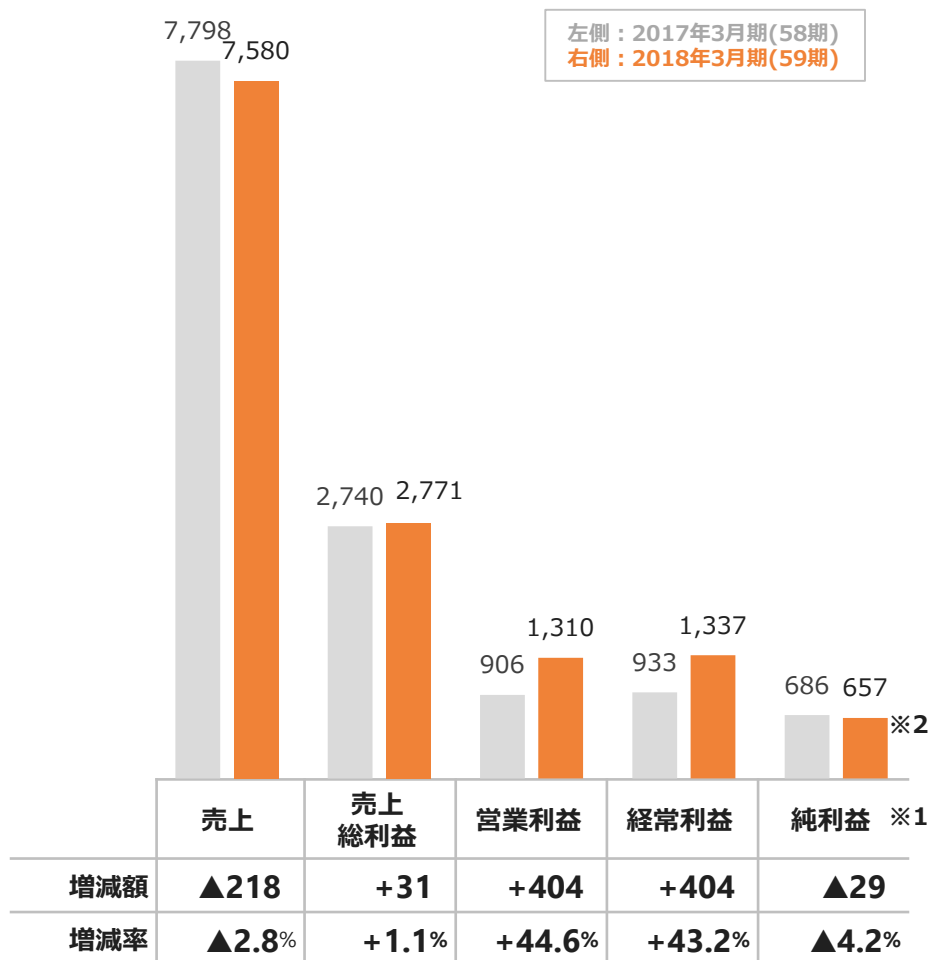
① 株式譲渡益（特別利益）約930百万円を中間期で計上

● 2019年3月期（第60期）からは個別決算となります。

前年対比

売上・利益

経費



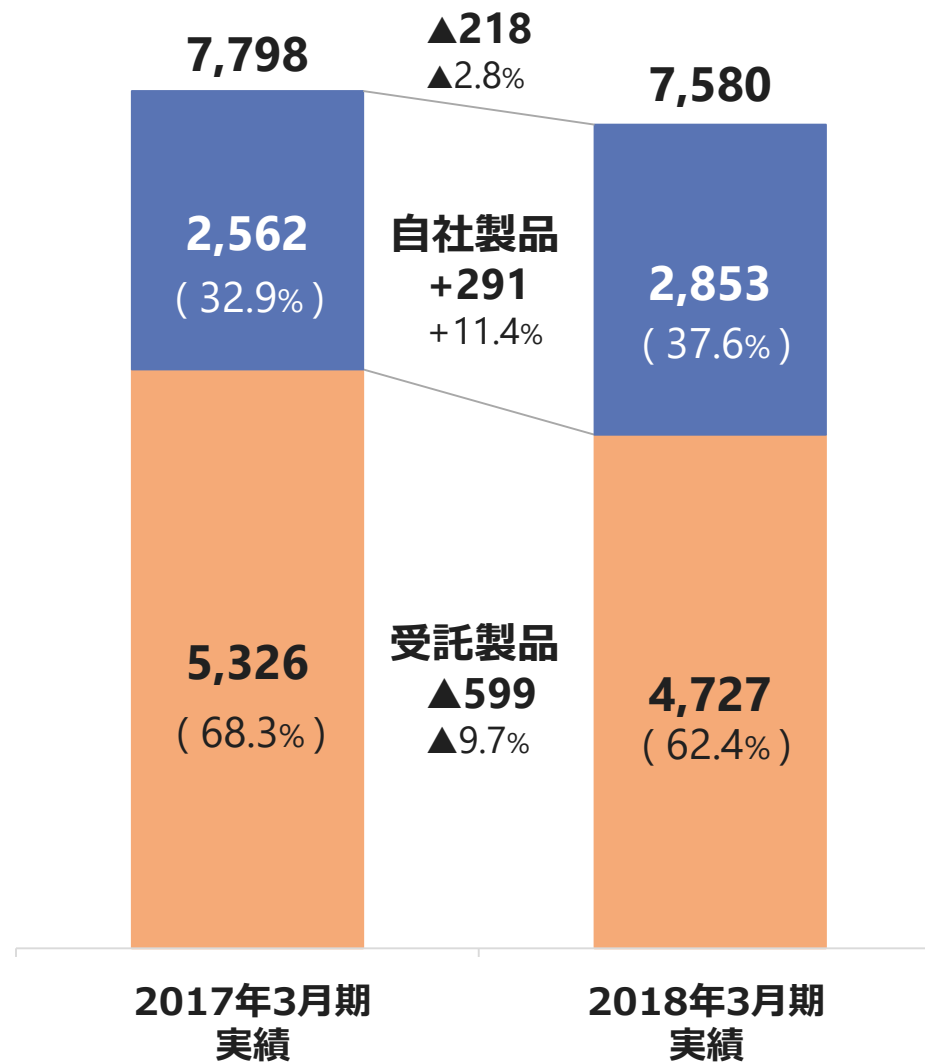
※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 アバール長崎株式譲渡にともなう法人税等約3億円を計上

セグメント別売上前年対比

上段：増減額
下段：増減率

グラフ内の()はセグメント別
売上の構成比



自社製品

● 組み込みモジュール

FA全般及び医療機器関連における新規受注は堅調に推移したため、売上高は増加。

➡ 売上高 455百万円（前年同期比 +69百万円 +17.9%）

● 画像処理モジュール

各種検査装置における積極的な新製品開発の推進に加え、検査工程の自動化ニーズの高まりにより、売上高は大幅に増加。

➡ 売上高 1,453百万円（前年同期比 +455百万円 +45.6%）

● 計測通信機器

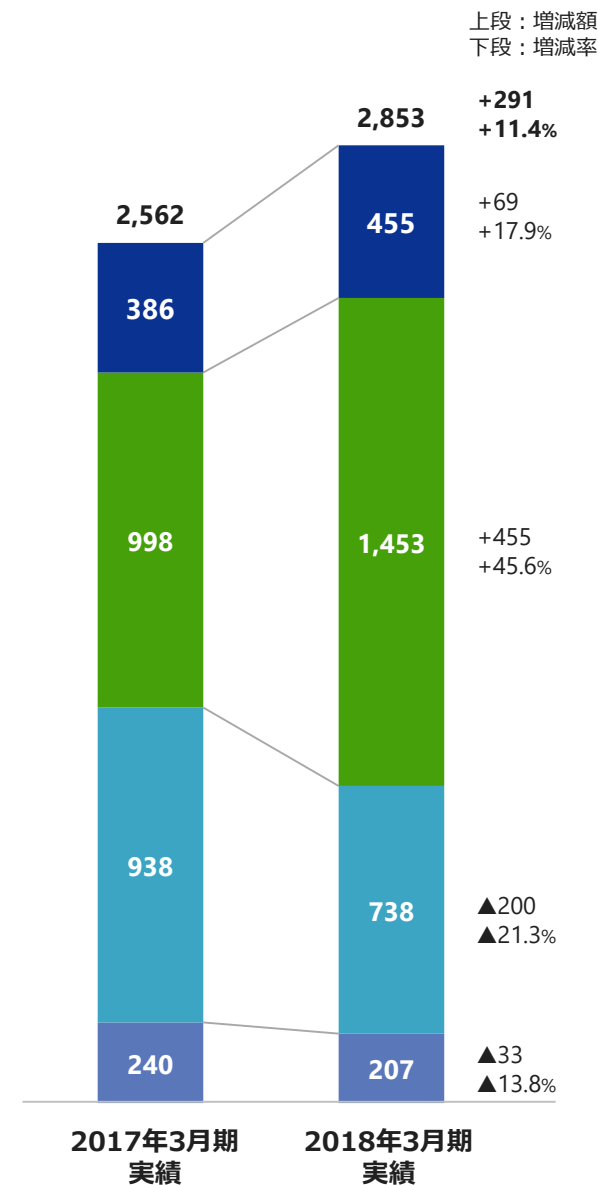
超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」は、新規検査装置向けの開拓が顕著に進んだ一方で、子会社を連結対象より除外したため、売上高は減少。

➡ 売上高 738百万円（前年同期比 ▲200百万円 ▲21.3%）

● 商品（自社製品関連）

自社製品全般において堅調である一方で、子会社を連結対象より除外したため、売上高は減少。

➡ 売上高 207百万円（前年同期比 ▲33百万円 ▲13.8%）



受託製品

上段：増減額
下段：増減率

● 半導体製造装置関連分野

大手半導体メーカーの3D-NAND向け設備投資が継続したため、売上高は増加。

➡ 売上高 3,885百万円（前年同期比 +432百万円 +12.5%）

● 産業用制御機器分野

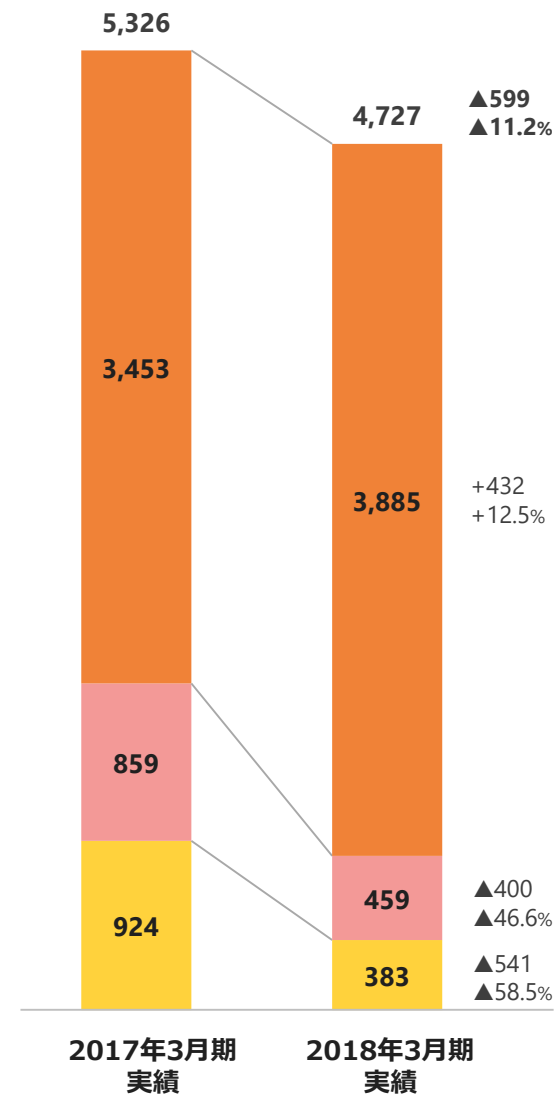
各種の産業用検査装置の新規展開は順調に進んだ一方で、子会社を連結対象より除外したため、売上高は大幅に減少。

➡ 売上高 459百万円（前年同期比 ▲400百万円 ▲46.6%）

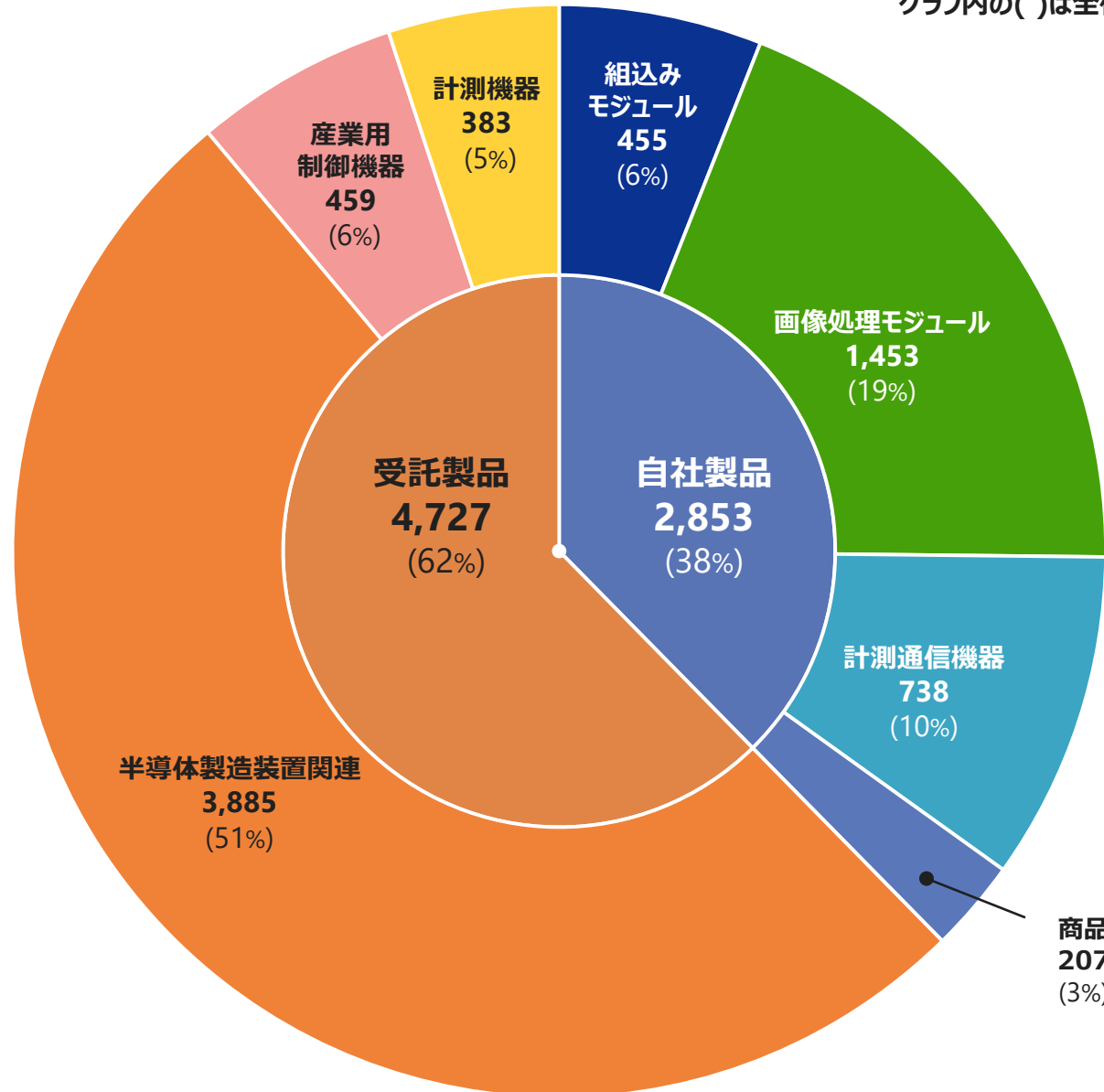
● 計測機器分野

各種計測機器の需要は回復傾向にあるものの、子会社を連結対象より除外したため、売上高は大幅に減少。

➡ 売上高 383百万円（前年同期比 ▲541百万円 ▲58.5%）

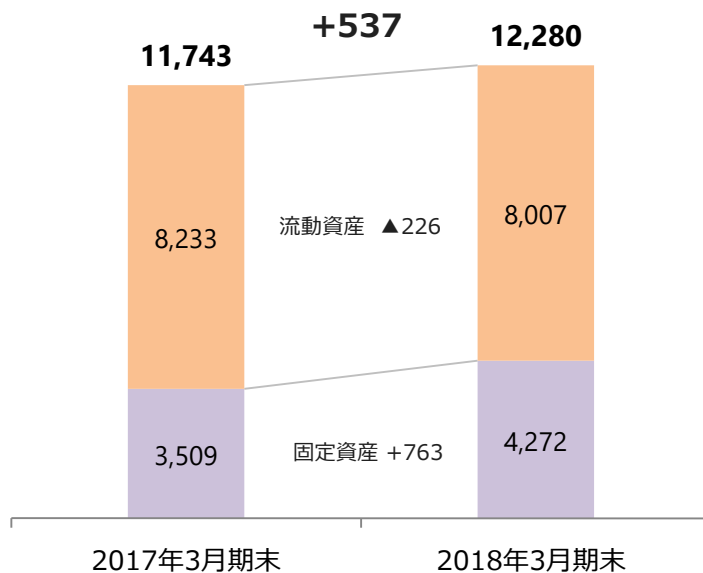


グラフ内の()は全体売上に対する構成比

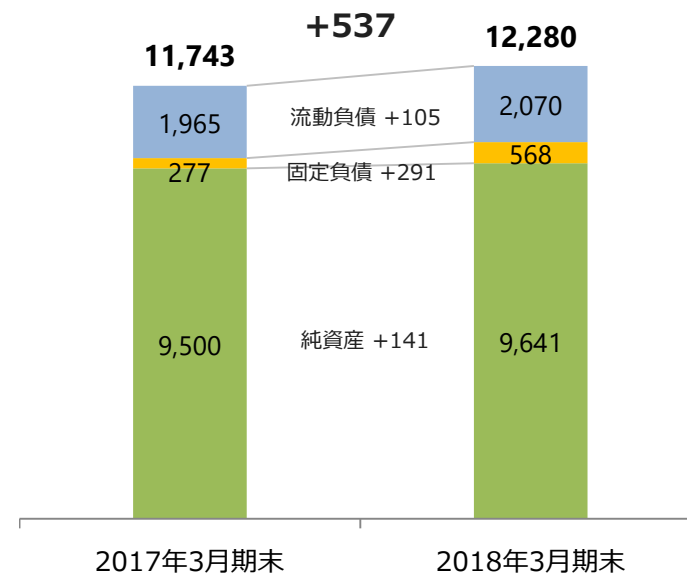


◎自己資本比率 78.5 % （2.8 ポイントアップ）

資産の部



負債及び純資産の部



主な増減

流動資産	▲226
現金・預金	+56
受取手形・売掛金・電子債権	▲52
棚卸資産	▲197
固定資産	+763
投資有価証券	+1,103
土地・建物	▲207

主な増減

流動負債	+105
未払法人税等	+355
支払手形・買掛金	▲201
固定負債	+291
繰延税金負債	+325
長期借入金	+53
退職給付引当金	▲79
純資産	+141

シリーズ強化と利便性追求

- ◆ 次世代I/F 画像取込モジュールの開発
 - ・ローコストモデル
 - ・画像処理用FPGA搭載モデル

- ◆ 新たな分析カメラの開発
 - ・ハイパースペクトルカメラ

- ◆ 高速A/D変換モジュールの開発
 - ・医療向け超高速サンプリングモデル

- ◆ 中近赤外線カメラの開発
 - ・波長 1 100~2550nm

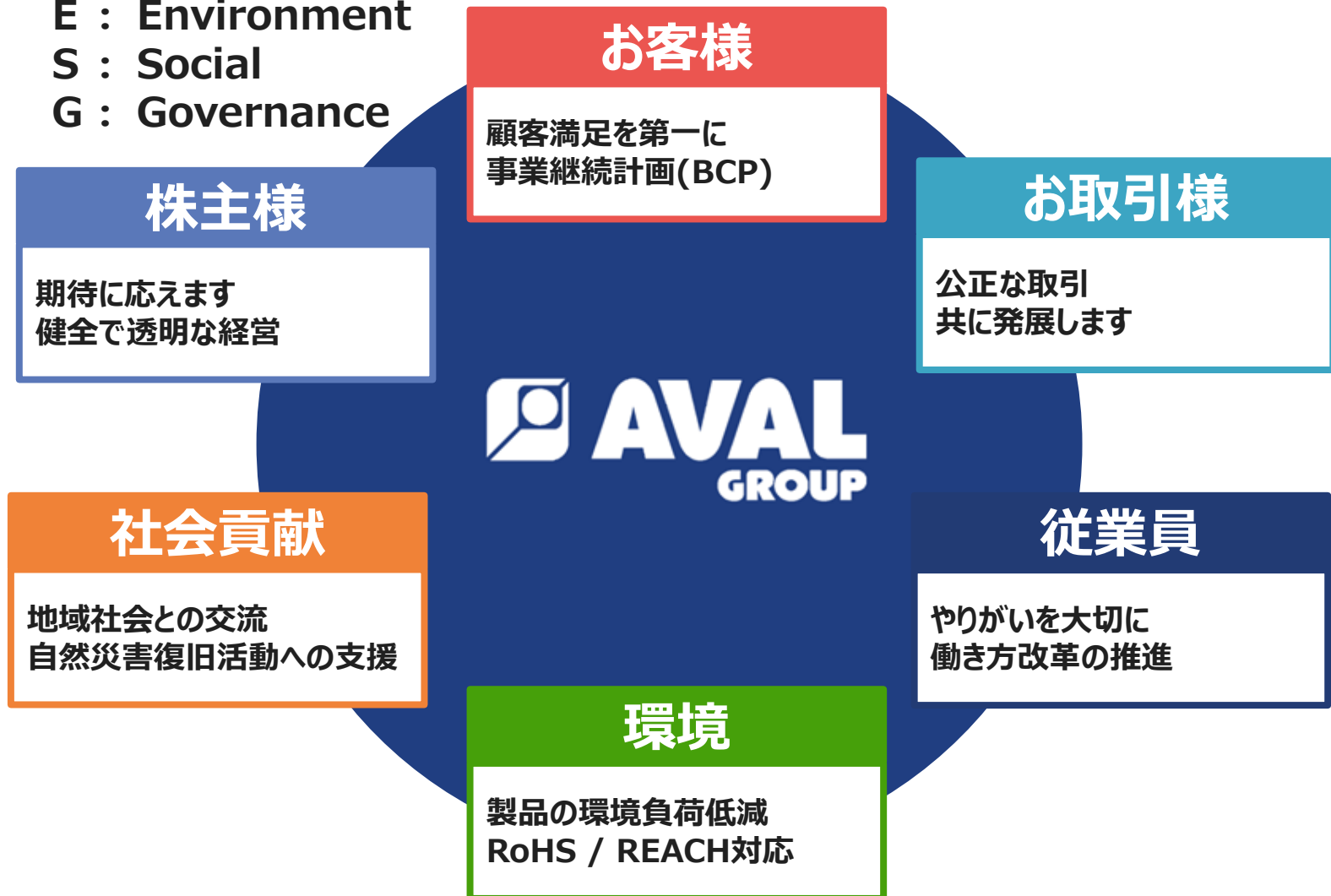
新規分野への挑戦

- ◆ アクセラレータモジュールの開発
 - ・ビッグデータの処理と高速データ通信可

- ◆ AOT社との業務・資本提携
メモリズムプロセッサ開発による
データ処理の総合的な解決策へ

CSR 企業の社会的責任

E : Environment
S : Social
G : Governance



発行済株式数

7,417,842株

株主数

3,468名
(前期比 913名増)

利益還元に関する考え方

- 安定的な配当にも配慮
- 各期の業績に応じた利益を配分
- 当期は連結配当性向35%を基本に
創業60周年の記念配当6円を実施

配当の実施状況

	59期	60期 (予)
1株当たり配当金	58円	56円
配当性向	53.6%	35.5%



東証JASDAQ上場

証券コード
6918

 **AVAL DATA CORPORATION**

決議事項

第1号議案

剰余金の処分の件

期末配当に関する事項

将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、創業60周年記念の記念配当6円を加え、1株につき37円といたしたいと存じます。

- (1) 当社普通株式1株につき 金37円
総額 226,799,862円
(中間配当金を含め1株につき 金58円)

- (2) 剰余金の配当が効力を生じる日
平成30年6月25日

第2号議案

取締役（監査等委員である取締役を除く）4名選任の件

- 1 再任 広光 勲
- 2 再任 仲山 典邦
- 3 再任 菊地 豊
- 4 再任 岩本 直樹